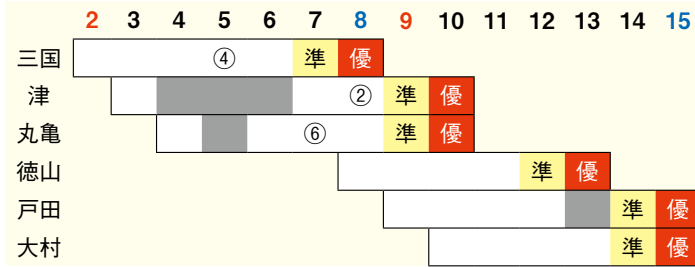


ひまひま データ

数字で遊ぶ
ボートレース

中止多発で起きた奇跡、きょうだい対決、トピック満載の地区選をまとめます

表1 ●2月地区選6場の開催状況



■=丸々1日中止

○=丸数字内は当日行われたレース数

準優・優勝戦は当日すべて12レース行われました。

表2 ●GII以上でドリーム戦がなくなった開催

年月日	場	タイトル	ドリーム	打ち切り
2009/01/31	鳴門	GI地区選	1日目分	9R以降打切
2014/02/08	平和島	GI地区選	1日目分	10R以降打切
2020/07/01	江戸川	GIIMB大賞	1日目分	7R以降打切
2020/07/02	江戸川	GIIMB大賞	2日目分	12R打切
2024/01/16	江戸川	GIIMB大賞	2日目分	10R以降打切
2025/02/06	津	GI地区選	2日目分	2日目打切

(節間1レース以上実施された開催のみ)

GIの3件はすべて地区選。09年の四国地区選では1日目の男子のドリームが無くなり、2日目の女子ドリームだけが行われました。そして今回の東海地区選は3日連続中止により2日目の分が中止に。2月7日に2日目分(ドリームあり)

2月の地区選手権は色々なことがありました。荒天続きで中止順延が多発。女子選手が9人準優に乗ったり、土屋千明・智則選手が1・2号艇で準優対決したり。ここでまとめたいと思います。

中止だらけの地区選

徳山と大村だけは日程通り開催されましたが、他の4場は中止や途中打ち切りが発生しました(表1)。戸田のように「1日だけ中止順延」これが一番よく見るパターンではないでしょうか。96年以降のGII以上は1500節ほど開催されて、そのうち「1日だけ中止順延」は今回を含め49節。そうではない中止や順延

が発生した開催は33節しかなく、そのうち3節(三国・津・丸亀)が今年という異例の事態だったのです。まず津の東海地区選は3日連続の中止。GI以上で3日以上連続中止は3件目で、震災で打ち切りとなった11年3月SGクラシックとコロナ関連により3日目を降が打ち切りとなった21年1月戸田GI周年です。それらは開催の打ち切りで、優勝戦まで行われた開催としては初めての3日連続中止でした。

そして予選は4日間のうちドリーム2戦目が打ち切りになりました。GII以上(節間1レース以上実施)で、ドリームが消滅してしまつたケースは6件目(表2)。そのすべては1Rが始まつたあと6Rまで実施されてそれ以降に打ち切りとなりました。6Rまで行われていたと順延はできないため、12Rに予定されていたドリームは行われませんでした。

今回衝撃だったのは井口佳典選手。井口選手といえば、この直前に出場した若松(1月26日〜30日)で予選全13レースで優出選手を決めるという超異例の開催に遭遇。何度もあつてはいけないのかもしれませんが、一生に一度だけでも見てみたい、予選が(ほぼ)1日だけという伝説的な開催で、2戦2勝により優勝戦1号艇を勝ち取りました(優勝戦は6着)。その次の開催でも中止、中止の異例のシリーズとなり、またも得点率1位に!! とこころが準優では2着。

井口佳典選手の奇跡

東海地区選は実質5日間開催、いや4日間+2レース(節間50レース)となりましたが、準優も優勝戦も実施されました。「優勝戦が実施された」GII以上の開催で、途中の1日分が中止となり消滅してしまつたケースは99年9月住之江GI高松宮記念と今回だけです。25年ぶりの出来事でした。

を行って、8日(3日目)を予選最終日にするのかと思つていました。私にはわかりませんが、そのようなルールがあるのかもしれない。

ちなみにGIIでは02年7月江戸川MB大賞が印象的です。初日が中止となり、2日目も途中で打ち切り。結果、Wドリームは2つとも消滅しました。予選は41レース行われ、準優メンバーも発表されましたが荒天で中止。予選1〜6位で優勝戦メンバーが組まれたものの、それも中止となり三角哲男選手が1号艇だった優勝戦は幻となっています。

表3-1 ●GII以上、2周レース率30%以上の開催

2周レース率	2周レース数	全レース数	場	タイトル	備考
83.3%	60	72	江戸川	22年GIIMB大賞	
70.7%	29	41	江戸川	20年GIIMB大賞	幻の準優・優勝戦
63.9%	46	72	桐生	22年GIIレディースAS	
46.1%	35	76	三国	25年GI地区選	
42.4%	28	66	丸亀	25年GI地区選	
33.3%	24	72	鳴門	17年GI周年	
33.3%	8	24	戸田	21年GI周年	3日目以降打ち切り
30.6%	22	72	下関	24年GI周年	

表3-2 ●GII以上優勝戦、2周レースの優勝者

登番	選手名	場	枠	進入	タイトル
3147	能登屋亮一	江戸川	1	1	99年GI地区選
3333	丸尾 義孝	鳴門	2	2	03年GI地区選
3300	川崎 智幸	下関	1	1	06年GI地区選
4448	青木 玄太	大村	1	1	17年GIIMB誕生祭
4816	村松 修二	宮島	5	5	20年GI地区選
4418	茅原 悠紀	徳山	1	1	21年GI地区選
4468	大池 佑来	江戸川	1	1	21年GI周年
4482	守屋 美穂	桐生	4	4	22年GIIレディースAS
4262	馬場 貴也	びわこ	4	4	22年GII秩父宮妃
4500	山田 康二	江戸川	1	1	22年GIIMB大賞
4494	河合 佑樹	鳴門	1	1	24年GI周年
4290	稲田 浩二	三国	1	1	25年GI地区選

表3-3 ●GII以上、予選49レース以上または41レース以下の開催

予選レース数	節間レース数	場	タイトル	備考
53	77	三国	09年GI地区選	※注
52	76	宮島	21年GIDC	
52	76	三国	25年GI地区選	
50	74	宮島	23年GI周年	
41	41	江戸川	20年GIIMB大賞	幻の準優・優勝戦
41	66	丸亀	25年GI地区選	
36	36	児島	11年GIIMB大賞	4日目以降打ち切り
36	60	住之江	99年GI高松宮	
26	50	津	25年GI地区選	
24	24	戸田	21年GI周年	3日目以降打ち切り

※注…4日目は6R以降打ち切り、その日の1~5Rの成績は予選得点率計算から除外

予選が少なくない方では戸田GI周年の24レースがあり、3日目以降は出走表も出ない完全な打ち切りでした。予選26レースで優勝まで行われた今年の津GI地区選の方が事実上の最少予選回数と言えるのかもしれませんが。丸亀の予選41レースもかなり少ない方の予選回数でした。3日目が7R以降打ち切り、ナイターのため4日目の12Rが一般であるため、予選は41レースでした。

予選が少なくない方では戸田GI周年の24レースがあり、3日目以降は出走表も出ない完全な打ち切りでした。予選26レースで優勝まで行われた今年の津GI地区選の方が事実上の最少予選回数と言えるのかもしれませんが。丸亀の予選41レースもかなり少ない方の予選回数でした。3日目が7R以降打ち切り、ナイターのため4日目の12Rが一般であるため、予選は41レースでした。



相次ぐ中止に見舞われながら
東海地区選で優勝した井口佳典

と難しい、カッコいい出来事でした。
2周レースの優勝戦
荒天により、2周レースも多く行われませんでした(表3-1)。2周レースの割合が高かった節間ランキングを作ってみました。GII以上で2周レース率30%以上はこの8件だけ。22年7月の江戸川IMB大賞は全72レースのうち60レースが2周レースでした。2周レース率83・3%は一般戦を含めた全開催でも1位です。GIに限定すると、今年の三国近畿地区選が46%で1位、丸亀四国地区選が42%で2位に入りました。これだけでもかなり異例の状況だったことがわかるかもしれません。

GII以上で優勝戦が2周レースとなったのはGI8件、GII4件あります。今回は近畿地区選が2周戦となり、稲田浩二選手が優勝しました(表3-2)。
予選を52レース行った三国や、41レースの丸亀、26レースしか行えなかった津はGII以上では非常に珍しいケースとなりました(表3-3)。最多は16年前の同じく三国での近畿地区選です。4日目が6R以降打ち切りとなり、5日目が再度予選最終日になりました。ただこの時、途中打ち切りによる順延分を予選得点計算に「含む」「含まない」は場によって違っており、三国の場合「含まない」でした。4日目の1~5Rの成績は得点率計算に含まれず、集計上は予選48レースでした。そういう意味では、予選52レースは21年4月の宮島GIダイヤモンドCに並ぶタイ記録と言えるのかもしれません。

土屋きょうだいが準優の1・2号艇で対決!

正確なことはわからないのですが、その昔、男女きょうだいレーサーはいいましたが、長い間現れず、久しぶりの誕生は92・93期の大峯豊・明菜選手だったと思います。その次が92・97期の土屋千明・智則選手でした。90期以降では、20組ほどの男女きょうだいがデビューしています。そのうち2人ともにA1級を経験しているのは、土屋千明・智則、松尾祭・夏海、竹井奈美・貴史、中村晃朋・桃佳きょうだいの4組だけ。その4組だけが、GII以上同時あつせんをしています(表4-1)。
竹井・中村きょうだいはヤングダービーに同時出場しています。土屋千明選手の場合は、第1回ヤングダービーの時点で30歳オーバーだったため、同時出場は不可能な状況でした。それにしても、男兄弟しか挑戦できなかった新鋭王座と違い、女子選手も出場できるヤングダービーの新設は、男女きょうだいにとても最初の目標になっているのではないのでしょうか。

表4-2●男女きょうだいのGII以上同じ準優対決

選手名	年月日	場	レース	着順	枠	コース	着順	枠	コース	
林通/貢	1998/09/17	児島	11	6着	6	3	2着	5	6	GI周年
篠崎元志/仁志	2012/12/03	丸亀	10	4着	5	5	2着	2	2	GIIMB大賞
篠崎元志/仁志	2015/07/28	福岡	12	1着	1	1	2着	3	3	GI周年
篠崎元志/仁志	2016/02/13	大村	12	1着	1	1	3着	4	4	GI地区選
篠崎元志/仁志	2016/03/01	芦屋	11	1着	1	1	5着	6	6	GI周年
篠崎元志/仁志	2017/05/27	福岡	12	2着	3	3	4着	2	2	SGオールスター
篠崎元志/仁志	2017/11/06	児島	12	5着	5	5	3着	3	3	GI周年
篠崎元志/仁志	2022/05/28	宮島	12	2着	5	5	6着	6	6	SGオールスター
篠崎元志/仁志	2023/01/25	若松	10	5着	5	5	2着	2	2	GI周年
篠崎元志/仁志	2024/12/12	福岡	10	4着	3	3	3着	5	5	GI周年
土屋千明/智則	2025/02/14	戸田	12	3着	2	2	1着	1	1	GI地区選
安河内将/健	2025/02/14	大村	11	4着	3	3	3着	6	6	GI地区選

表4-1●男女きょうだいのGII以上同時あっせん回数

選手名	地区選	ヤングD B	G2MB大賞
土屋千明 智則	3		
松尾祭 夏海	4		
竹井奈美 貴史	2	1	
中村晃朋 桃佳	4	2	1

表5-1●直前の地区選優勝者のSGクラシック優出

登番	選手名	年	場	着順	枠	コース	予選順位	得点率
3285	植木 通彦	97年	住之江	3	2	4	6位	6.80
3952	中澤 和志	05年	多摩川	5	5	5	5位	6.80
3941	池田 浩二	09年	多摩川	1	1	1	8位	6.67
4028	田村 隆信	09年	多摩川	3	4	4	11位	6.50
3415	松井 繁	10年	平和島	4	3	3	7位	7.00
3995	重野 哲之	11年	戸田	1	1	1	1位	8.17
4287	今井 貴士	13年	平和島	2	2	2	3位	7.50
3622	山崎 智也	13年	平和島	5	5	5	14位	6.00
3415	松井 繁	14年	尼崎	1	1	1	2位	8.50
4024	井口 佳典	17年	児島	2	5	5	6位	7.33
4418	茅原 悠紀	17年	児島	4	6	6	15位	6.17
4497	桑原 悠	19年	戸田	3	5	6	5位	7.50
4418	茅原 悠紀	23年	平和島	3	6	6	6位	6.83

■色=代替開催のSG復興支援競走

表5-2●地区選優勝者着順別のSGクラシック成績人数

↓地区選優出	クラ出場	クラ準優	クラ優出	クラ優勝
優勝	120	51	13	3
2着	64	29	2	0
3着	51	23	11	0
4着	42	9	3	0
5着	46	16	7	2
6着	51	22	9	1
失格など	10	6	1	0
合計	384	156	46	6

地区選優勝者はクラシックでどのような結果を残しているのでしょうか。96年以降の29年間の地区選優勝者174人のうち、クラシックに出場した選手は120人。そのうち優出した選手は13人しかいませんでした(表5-1)。そして優勝者は池田浩二選手、重野哲之選手(8月復興支援競走)松井繁選手の3人。今年の地区選優勝者からクラシック優勝者が出ると11

地区選優勝者のクラシックでの成績

土屋千明選手の男女混合GII以上の出場は5回目、準優に乗ったことが自身初でした。そもそもGII以上で同じ準優に乗ったケースはどれだけあるでしょうか(表4-1)。98年に林通・貢選手が児島周年で同じ準優に乗ったあと、次は14年後の篠崎元志・仁志選手まで飛びました。それはGIIでしたから、GIは15年7月の福岡周年で林兄弟から17年が経過してしまいました。その準優では1着と2着のワンツーで2人揃ってGI優出となりました。当時はもうすでに両選手ともGI覇者でもありました。今では2人ともSGを制覇しており、過去最強のきょうだいらいサーではないでしょうか。

年ぶりとなります。120人出場して優出13人であれば、9・2人に1人。通常52人出場で優出6人ですから、平均は8・7分の1の割合。地区選優勝者でもそれ以外の選手でも、優出や優勝の割合はあまり変わらないようです(笑)。ちょっと普通過ぎる結果でしたので、地区選優出選手に範囲を広げてみました(表5-1)。地区選優勝の行が先述の通りクラシック120人出場、優出は13人、優勝は3人という意味です。この表を見てひとつの気付きがありました。それはクラシック(十復興支援)29回のうち地区選で優出した選手は6人しか優勝していません。調べてみるとその6人は04年から15年の12年間に集中。それ以外は地区選で優出できなかった選手が優勝しています。えっ? 地区選で優出すると、クラシックで優勝できない!? そういえば、馬場貴也選手も毒島誠選手も準優止まりで地区選優出はできていません。地区選は残念でしたが、クラシックでの活躍の可能性は高いのではないのでしょうか。地区選での思いや悔しさをクラシックにぶつけて好成绩となっているのでしょうか。ちなみに奈須啓太選手はB2級(出走回数不足)でのSG参戦となります。過去のSGでは、05年クラシック・服部幸男選手、09年オーシャンC・吉村正明選手、13年クラシック・今垣光太郎選手がB2級で出場しています。いずれも予選敗退に終わっています。SG初出場の奈須選手はどんな結果となるのでしょうか。

関東地区選で話題の中心になった土屋千明と智則

